日本共産党
区議会議員

黒沼良光（くろぬまよしみつ）

平和・くらし・福祉・
中小企業を全力で守ります

安倍暴走ストップ
共産党躍進の流れを
さらに大きく

大田民報
日本共産党大田地区委員会の見解を紹介します。
2015年春季号外　発行　大田民報社　大田区北馬込１－４－12 佐藤勲方

黒沼良光 6回目
9名の区議団で
いのちと暮らし守る議会に

先の衆議院選挙で日本共産党は、全国比例得票で606万票、得票率11・37％、選挙前の8議席を大きく上回る21議席を獲得し、衆議院でも法案を単独で提出できる大躍進を果たしました。

日本共産党は、今年4月の区議会議員選挙において、黒沼良光区議の6回目と9人の区議団をめざします。そして暴走する安倍政権に対しものを言わない区議会「オール与党」に、切実な区民要求をつきつけ、みなさんとともに区政を大元から変えるためにいっそう頑張ります。

ねばりづよく区政を動かす

黒沼良光区議は95年の区議会初当選以来、18年間にわたって、自民党を中心としたオール与党とわたり合い、区民要求の実現のためにねばり強く奮闘してきました。前回の区議会議員選挙（二〇一一年4月）で、黒沼良光区議は「三つのゼロ」「三つの安心」の公約を掲げました。

そして区民の皆さんの運動と9人の共産党区議団との連携で、数多くの実績を積み上げることができました。

「病院存続」1万名署名で国をも動かす

旧蒲田総合病院の公的存続ついに実現

住民と共に厚労省前で座り込み

社会保険庁の解体により、社会保険蒲田総合病院の存続が危ぶまれ、地域には不安が広がりました。黒沼区議は「国の責任を投げ捨てた自民・公明は許せない」と住民の皆さんや病院職員らとともに、数度にわたり厚生労働省と交渉、提出した署名は1万名を超えました。長年の努力がみのり、病院は「東京蒲田医療センター」として公的に存続が決まりました。更に小児科病棟も再開し、住民にとってなくてはならない病院になりつつあります。

特養ホームを増やす

4年間に馬込、萩中、大森西など5か所に設置計画実現、さらに1か所の計画がすすんでいます。特養ホーム増設に消極的な区の姿勢を動かしたのは、公有地の活用を切り開くために、国会議員や都議会議員と連携し、財務省と交渉したこと。

そのうえで、区議会でもねばり強く質問を重ね、公有地への特養ホーム建設が実ったのです。

認可保育園を増やす

13年度で10認可保育園を増設、608名、4年間では29認可保育園、1898名の増員を達成しました。（認可外を含めればさらに増えています）認可保育園を増やさないと言っていた区の姿勢を区民と共にかえさせました。

公営住宅を増やす

4年間で、シルバーピアが増設、区営住宅も大森西などで増えました。ひき続き、みなさんといっしょに全力をあげます。

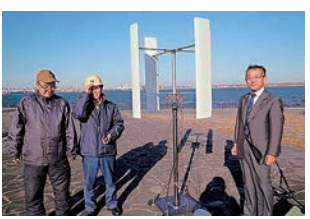
町工場や商店で親身に懇談。

生の声を政治に

中小企業を守り抜く

大田区の機械・金属加工業は増税不況・円安のもとで、かつてない危機に立たされています。黒沼良光区議は、今こそ中小企業・業者に光をあてようと、熱い思いで区内を駆けめぐっています。大田区では日本共産党区議団の粘りづよい取り組みで、住宅リフォーム助成の拡充や3人以下のすべての町工場・商店の実態調査が実現しました。調査結果に基づく政策づくりに全力をあげます。

区内の町工場が未来を切り開く開発に挑戦



城南島で小型風力発電装置の試運転に立会う黒沼さん(右側)

独自技術で自然エネルギー活用へ

区内の機械・金属加工業15社のみなさんが力をあわせ、大田区の「新製品開発支援事業」を活用し、小型風力発電の開発に助成金を得ることができました。モデル機の試運転（2015年1月）にこぎつけています。

区民の苦難あるところいつでもどこでも黒ちゃんあり

生活相談 4年間で1000件

相談をうけると、現場に駆けつけ、徹底した調査で、区当局に実現を迫る―介護認定者の税金軽減、胃ろう患者の特養ホーム入居基準の確立などの要望を実現。議会では、技術者らしい丹念な調査をもとに、住民要望を実現する具体的な提案をつぎつぎに。当局も一目置く存在です。

さらに数多くのサラ金被害、立ち退き問題などを解決しました。

有言実行の黒沼さんを推薦します

黒沼さんは、『生活が苦しく、病院にも行けない』等という生活相談が舞い込めば、軽快なフットワークですぐに駆けつけ、親身になって対応・解決され、相談者に喜ばれています。いつも笑顔。しかし、区民に冷たい行政の行為については、決して許さず、厳しく行政に迫ります。有言実行の人。これが黒沼さんです。心から推薦致します！

弁護士
黒澤有紀子さん

黒澤さんは、黒沼良光事務所の顧問弁護士です

得がたい政治家・黒沼さん

私達住民におおいかぶさってくる多種多様な問題を解決すべく奮闘する姿に敬服しております。得がたい政治家です。再度区議会に登板していただきたく思っています。

元京浜診療所長
須藤　駿さん

区民のみなさんと

(旧蒲田総合病院)
東京蒲田医療センターの産科再開へ

付近に住む親子とともに、病院前で

お産難民解消へ引きつづきがんばります

黒沼良光区議は、大田区内で毎年５００人の新生児が生まれるのに、区内病院では２８００人しか分娩できない実態を住民に知らせ、パパママの切実な要求の実現をねばり強く追求しました。さらに共産党区議団はこれまで荏原病院の

- 産科再開・拡充、産院のベッド拡充助成などを実現してきました。

昨年末、ついに東京蒲田医療センターの新院長が「医師による分娩再開」を表明。地域のみなさんの長い間の要求が、実現へ大きく近づきました。

安心して赤ちゃん産める環境を

２０１４年に第一子を東京労災病院で出産しました。労災病院はとてもいい病院ですが、自宅から通院に1時間弱かかり、つわりがひどい時や臨月のころはつらかったです。身体の変化が大きい妊婦にとって、近くに頼れる病院があることはとても大切です。東京蒲田医療センターで出産できたらありがたいです。安心して出産に臨める環境が整うことを願います。

南六郷在住Mさん（31歳）

力あわせ実行します

パパママ応援

蒲田医療センターの分娩再開を応援
認可保育園の更なる増設と充実

若者応援

ブラック企業を根絶します
正規雇用が当たり前の社会に
若者サポートステーション設置

高齢者支援

ひき続き特養ホーム増設を

公用地活用で特養ホーム建設を

南蒲田一丁目隣の気象庁の宿舎が2015年に売りに出され、自治体に優先権があたえられます。特養ホーム実現のために頑張ります。

国保料を引き下げます

議会のムダを減らす

与党議員の海外視察をやめさせます
議員の議会通勤手当をやめさせます

ご意見・ご要望なんでも相談は

03-3735-6467へどうぞ
メール：yosimitu-dora-kuronuma@nifty.com
ホームページ：黒ちゃんの「飛びある記」
【活動地域】蒲田・蒲田本町・南蒲田・東六郷・南六郷

黒沼良光

プロフィール

●1948年（昭23年）山形県生まれ、５年制の国立工業高専卒●民主青年同盟大田地区委員長、日本共産党大田地区委員会役員など●1995年大田区議会議員（５期18年）、健康福祉委員長、羽田空港対策委員長など歴任。●趣味　スキー、ジョギング、絵画鑑賞。

おしんのような少年時代

山形県の農家に生まれた黒沼さん。野菜や家畜の世話が大好きな心優しい少年でした。中学時代は野球部に所属、朝５時起きでバットの素振り、下校後も家の手伝い、そんな毎日を苦にもせず、少年期を過ごしました。苦労をいとわない、粘りづよい性格は、このころ身に付いたのでしょう。

写真右端が黒沼少年です。

技術者めざした高専時代

農業を継ぎたいと思っていましたが、父から「農業ではやっていけない」と言われ、鶴岡高専の機械工学科に進学、設計、旋盤、溶接の実習など技術者の基礎を学びました。

日本共産党との出会い

就職は大田区の新潟鉄工。原発の設計・施工にも従事。やがて若者が生きづらい大元の政治を変えねばと、70年、21歳で日本共産党に入党しました。やるとなればとことん打ち込む黒沼さん。75年に意を決して新潟鉄工を退職、79年（30歳）から日本共産党の専従職員として、人生のすべてをかけます。

5期18年にわたる区議会議員活動

95年、47歳のとき大田区議初当選。以来６千件をこえる生活相談、特養ホーム建設などで全力疾走。蒲田総合病院の公的存続、中小企業を守り抜く活動、議員の海外視察中止を追及するなど大田区民にとってはなくてはならない存在です。２０１０年核兵器廃絶をめざすＮＰＴ再検討会議に参加するためニューヨークへ。その後もねばり強く核廃絶署名や原水禁世界大会成功のために取り組んでいます。